

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ツクルADVANCE 生駒校(生駒市北新町)				公表日	2025年 3月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	専門職を配置し、療育についてより一人ひとりに合った支援が行える体制作りにも努めている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	個別と集団でスペースを明確に分けている。部屋を分けるのではなくスペースで区切ることで緊急時の把握などもしやすくしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	利用する年齢層に合わせて落ち着いた雰囲気でも過ごせることを意識した環境作りにも努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	別室であったり、個別や集団の時とは違うスペースを確保したりということを行なっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	毎月業務目標を定めており、毎日の業務の中で意識するよう努めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	イベントの実施時などは都度保護者アンケートを実施し、保護者や利用者からのフィードバックを受けるようにしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	毎月複数回事業所内で会議を行い、日々の業務で発生した不明点や今後の相談などを行う機会を作っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4		十分な評価を得られる体制が出来上がっていないため、今後の課題としている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	事業所内での実際の業務を通じたOJTや、段階的な研修の実施、外部機関を活用した研修機会の提供を行なっている。	研修後の個々の評価など、振り返りの機会が少ないため、アフターフォローもできる体制作りを行なっていきたい。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	HPにて公表済み。利用者にも見学体験時などに説明を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	モニタリング以外にも日々保護者との連絡や連携を意識し、ニーズや課題の把握にも努めている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	保護者や児発管だけでなく、実際に支援にあたっている職員の意見なども聞き取り、今必要な支援について検討するように努めている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	日々の療育については毎日話し合いを行い、全員が把握できるよう努めた上で活動プログラムの立案と実施を行なっている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	利用者の反応やニーズの調査などを行いながら、新しい取り組みを取り入れるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	午前中の時間を話し合いに割り当て、個々の療育内容やケース会議などを常に行なっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	毎日支援終了後に振り返りと個々の特記事項の報告を行い、翌日の午前中にも不在だった職員を交えて振り返る時間を作っている。	よりスムーズにかつ多くの情報を振り返る方法についてはまだまだ改善の余地があると思われる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	ただ記録をつけるだけでなく、口頭での報告も行い、出来るだけ漏れない情報共有に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	療育開始前の計画立てと終了後の振り返りの時間を作り、自己決定と見直しを持つ練習の機会を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	不登校の利用者に対して療育記録や、学校現場での支援の方法などについての情報共有を行なっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	4		中高生の利用が中心のため、就学前の事業所との連携の機会がない。他事業所
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1		まだ実績がなく、今後そういったことが出てくるため、
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4		連携を図る体制は構築しているが、助言や研修を受ける体制までの構築が整っていないので今後の課題としている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	地域交流を目的としたイベントを本年度実施した。	まだ実施回数が少ないため、継続した取り組みが今後の課題と捉えている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	市の放デイ協議会、子ども支援部会への参加をし、他事業所、他職種との連携に努めている。	

保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	毎月の活動記録を送付したり、その日の様子を伝えたりと各家庭の要望に合わせて情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	専門職コラムの配信など、療育や子育てについての情報提供を行っている。	実践的な研修等の機会はまだ実施回数が少ないため、今後も継続して取り組んでいきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に説明を行っている他、保護者からの問い合わせがあれば都度対応している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	5	2		まだ開催頻度が少ないため、継続して取り組んでいくことが今後の課題となっている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	Instagramを活用し日々の療育やイベントについての発信や、専門職から子育てや療育につながる知識についての情報提供の発信も行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	地域の団体や子どもたちを招いてのイベントの開催を行なっている。	まだ開催頻度が少ないため、継続して取り組んでいくことが今後の課題となっている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1		
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	今年度BCPを策定し、それも踏まえた防災訓練の実施などを行なっている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	利用契約時に保護者に確認の他、利用中に変化があった場合は都度確認を行なっている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2		事業所内で喫食の機会がないため、実際の対応の実績がない。今後行う場合には、
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0			

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	事業所内だけでなく、グループ全体で共有することで、再発だけでなく事前の防止にもつながるよう努めている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	マニュアルを策定した上で、保護者にも契約時等に説明を行っている。	